

平成27年度決算の状況

平成27年度 水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少や節水機器の普及及び節水意識の定着等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少傾向にあり、経営的には非常に厳しい状況となっています。

今年度においては、職員数の減少に伴う退職給付引当金の戻入などの特別利益が発生したため、黒字とはなりましたが、営業収支では昨年度より更なる営業損失を計上しており、よりいっそうの経費の削減等による経営の健全化が求められます。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、将来の水道事業の目標や実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」に基づき、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けてさらに取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、3,292,299^m（1日平均9,020^m）で、前年度と比較して1,158^m（0.04%）の増加となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で93,241,252円（うち消費税及び地方消費税4,839,259円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・防鹿水源地生物センサー取替工事	12,243,960円
・立戸配水池管路敷災害復旧工事	26,617,680円
・防鹿地区管渠（上水・下水）布設工事（水道事業会計分）（平成26年度繰越分）	9,581,040円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成27年度の収益的収支は、収入総額 534,468,525円、支出総額 498,096,738円で、差引き 36,371,787円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	534,468,525円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	498,096,738円
	差引利益額	36,371,787円
資本的収支	収入総額	10,979,080円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	135,987,179円
	差引不足額	125,008,099円

資本的収支の不足額125,008,099円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 4,842,299円、過年度分損益勘定留保資金 90,165,800円、建設改良積立金 30,000,000円で補てんしました。

○平成27年度 工業用水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

工業用水道事業は、これまで安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与してまいりましたが、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が財政を大きく圧迫するなど、厳しい経営環境となっています。

今後も、適切な施設の維持管理を行うとともに、より一層の経費節減を図りながら経営の健全化に努めてまいります。

(ア) 営 業

本年度の有収水量（計量分）は、9,649,194 m^3 （1日平均 26,364 m^3 ）で、前年度と比較して10,158 m^3 （ $\Delta 0.1\%$ ）の減少となりました。

(イ) 建設改良

該当事項なし

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成27年度の収益的収支は、収入総額 517,567,917円、支出総額 480,439,549円で、差引き 37,128,368円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息 102,728,040円の財源にあてるため、未売水企業債利息債 19,400,000円を借りました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	517,567,917円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	480,439,549円
	差引利益額	37,128,368円
資本的収支	収入総額	215,100,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	481,106,509円
	差引不足額	266,006,509円

資本的収支の不足額 266,006,509円は、過年度分損益勘定留保資金 238,300,485円、当年度分損益勘定留保資金 27,706,024円で補てんしました。

平成27年度 公共下水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

公共下水道事業は、処理人口の減少や節水機器の普及等による処理水量の減少に伴い、使用料収入が年々減少しています。一方で地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行なってきたことから、事業認可区域内における整備はほぼ完了していますが、施設の老朽化が進んでおり、その対策を含め厳しい経営状況となっています。

そのため、下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図る「下水道長寿命化計画」に基づき、経費の節減等による経営の健全化に引き続き努め、今年度も利益を計上することができました。

今後も、いっそうの経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営 業

本年度の有収水量は、2,981,818^m³（1日平均 8,169^m³）で、和木町からの受入水量は、1,775,937^m³（1日平均 4,865^m³）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も94.2%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で243,626,660円（うち消費税及び地方消費税16,411,752円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・小島汚水中継ポンプ場合流式沈砂池設備改築更新工事	46,591,160円
・防鹿地区管渠（上水・下水）布設工事	45,000,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成27年度の収益的収支は、収入総額 942,895,636円、支出総額 888,427,575円で、差引き 54,468,061円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	942,895,636円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	888,427,575円
	差引利益額	54,468,061円

資本的収支	収入総額	280,491,013円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	563,083,037円
	差引不足額	282,592,024円

資本的収支の不足額 282,592,024円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 8,504,326円、過年度分損益勘定留保資金 120,823,171円、当年度分損益勘定留保資金 153,264,527円で補てんしました。